

八戸市 都市計画マスタープラン 全体構想について

第6回 策定委員会（平成29年2月8日）

■ 計画の構成と各項目の記載内容

八戸市の概況

○人口や土地利用、産業、交通などの概況

社会情勢の変化と将来展望等

○今後想定・懸念される社会情勢の変化等

都市計画に求められる課題

○都市計画による対応が求められる個別的な課題

都市計画の基本理念

○課題を包括的に解決するための都市計画における取り組みの方向性

将来都市像

○都市計画により実現を目指す将来の都市の姿

将来都市構造

○「将来都市像」の実現に必要な将来的な都市構造のあり方

まちづくりの方針

○7つに区分した都市計画の分野別の方針

- ①土地利用
- ②交通
- ③水とみどり
- ④景観
- ⑤防災
- ⑥その他都市施設
- ⑦協働のネットワーク

全体構想

地域別構想

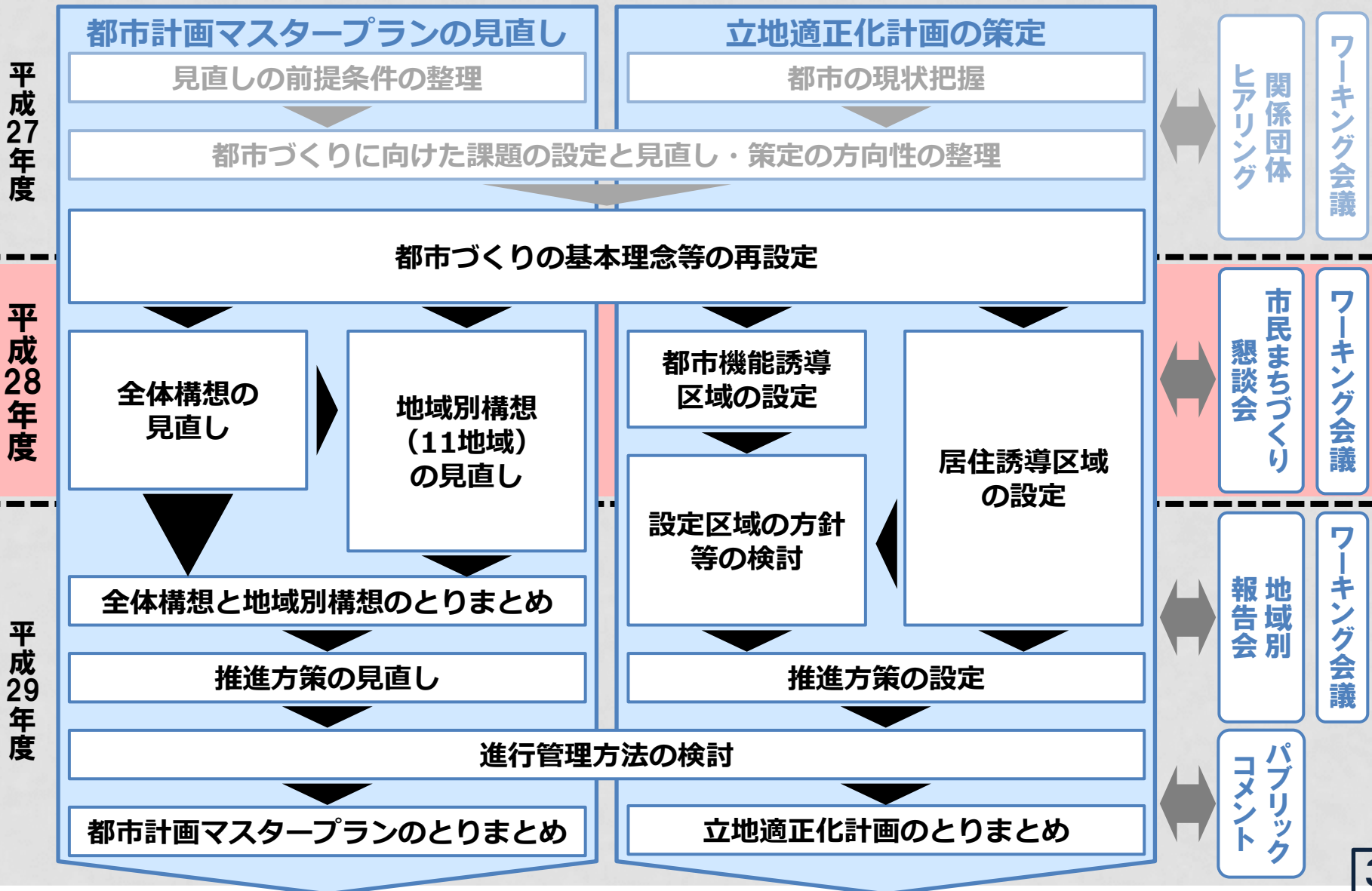
○「全体構想」に基づく地域別（11地域）のまちづくりの方向性

推進方策

○計画実現化のための取り組み方法・進め方の考え方・方針

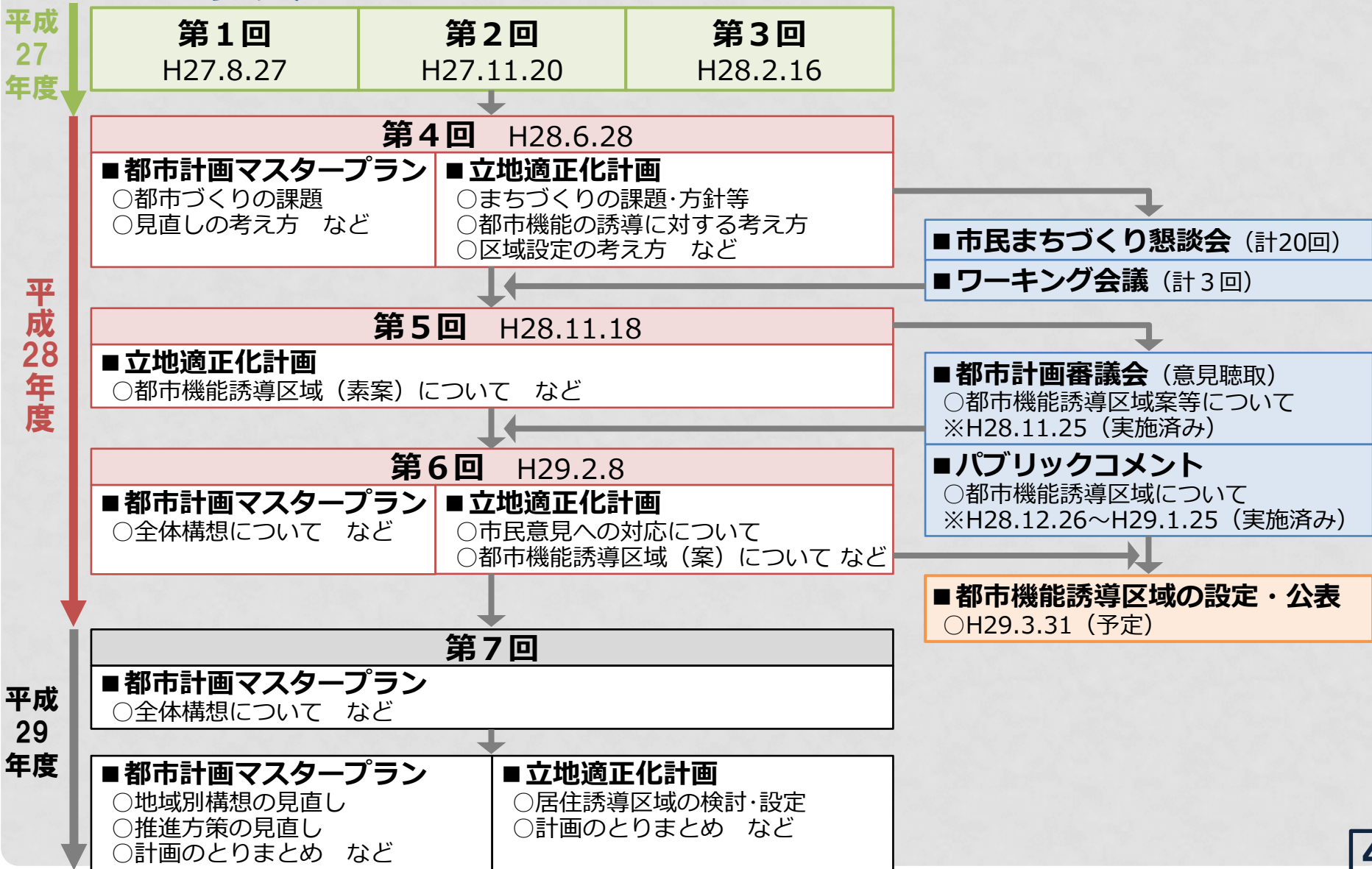
1. 検討スケジュール等

1-1 今年度の検討の進め方



1. 検討スケジュール等

1-2 策定委員会における検討内容



2. 八戸の現状等

2-1 八戸市の概況

【人口】

- **総人口の減少と高齢化の進展、生産年齢人口・年少人口の減少**
⇒働き手の減少、消費市場の縮小による産業の低迷
⇒通勤・通学者の減少による公共交通利用者の減少
- **通勤・通学での流入者数の減少**
⇒広域の中心都市としての活力の維持・向上が課題

【産業】

- **各産業の生産額等の低迷、担い手の減少**
⇒都市の活力低下が懸念
- **循環型産業（LNG等）やIT・テレマーケティング産業の立地などの新たな動き**
⇒新たな産業誘致の可能性
- **観光入込客数の増加**
⇒観光振興によるさらなる交流人口の拡大・にぎわい創出の可能性

【土地利用】

- **市街化区域、特にDID地区内の人口の減少・人口密度の低下**
⇒都市基盤（インフラ）や生活を支える機能の維持が困難になることが懸念
- **中心市街地等での顕著な地価下落**
⇒人口減少や都市機能の低下による地価のさらなる下落が懸念
- **農地・山林の減少と都市的土地利用の進展**
⇒市街地が低密度に拡散していくことが懸念
⇒農業生産や良好な自然環境への影響が懸念

【交通】

- **新幹線・港湾（商港・工業港・漁港）・高速道路の結節点となっている交通利便性**
⇒産業立地を推進する上での強い優位点となる可能性
- **公共交通の高い人口カバー率、近年の路線バス利用者の増加**
⇒人口減少にともなう利用者の伸び悩み・減少が懸念

2. 八戸の現状等

2-2 社会情勢の変化・将来展望等

- **人口減少・高齢化のさらなる進展**
 - ⇒自家用車を利用できない・利用しにくい市民が増大する可能性
 - ⇒子育てしやすい環境づくりの必要性
 - ⇒居住環境等に対するニーズの変化
- **東日本大震災の発生・異常気象による自然災害の頻発**
 - ⇒災害に対する危機意識の高まり
 - ⇒災害に対する「備え」の必要性増大
- **地球環境問題の深刻化**
 - ⇒温室効果ガスの排出抑制等（都市の低炭素化）に対する社会的要請
 - ⇒環境負荷の低いライフスタイルへの転換の必要性
- **社会資本の老朽化の顕在化**
 - ⇒都市基盤（インフラ）や公共施設の維持管理・更新コストの増大が懸念
- **南郷村との合併**
 - ⇒市域のさらなる拡大
 - ⇒地域の個性のさらなる多様化（新たな個性・魅力の追加）
- **中核市への移行・連携
中枢都市圏の形成**
 - ⇒広域の中の中心都市として果たすべき役割の増大
 - ⇒都市間競争やグローバル化への対応の必要性
- **多様化・高度化する市民ニーズ等への対応の必要性**
 - ⇒行政の主導による取り組みの限界
 - ⇒市民等が主体となった取り組みや活動の活発化

3. 都市計画に求められる課題

超高齢社会への対応

- 「ユニバーサルデザイン」の視点にも配慮した、高齢者でも安心・快適に暮らし続けられる都市づくり

人口減少の抑制

- 住みたい・住み続けたいと思ってもらえる、人口減少の抑制につながる都市づくり

産業の活性化

- 産業立地の促進、交流人口の拡大など、多様な産業の活性化を促す都市づくり

自然環境・農業生産環境との調和

- 森林や海岸などの豊かな自然環境や田園地帯の良好な農業生産環境と調和した都市づくり

地域の個性の発揮・活用

- 自然資源や歴史文化などを有効に活用して都市の活力や魅力の向上につなげていく都市づくり

都市としての一体性確保

- 地域相互の連携を強化し、都市としての一体性を確保

都市の防災性強化

- 震災や豪雨災害・土砂災害など、多様な自然災害に対応できる、災害に強い都市づくり

広域の中心都市としての役割

- 都市の活力や魅力の向上を図ることで、圏域全体をけん引する役割をこれまで以上に果たしていく

環境にやさしい都市構造の構築

- 環境にやさしい都市構造の構築、都市の低炭素化の推進

都市経営のコスト抑制

- 事業者やNPOなども含めた様々な人たちの協働によって都市づくりを進めていく

市民によるまちづくりの推進

- 効率的な都市サービスの提供が可能な都市構造を構築することによる都市経営のコスト抑制

4. 都市計画の基本理念

都市の活力や魅力の向上

- 本市の持つ優位性や地域の多様な個性などの効果的な活用による都市の活力・魅力の向上

- 広域の中での中心都市としての役割を發揮
- 多くの人が住みたい・訪れたいと感じる都市
- 人口の減少抑制や交流人口の拡大、多様な産業の活性化

安全・安心で暮らしやすい居住環境の形成

- 市民の日常の生活を支える都市機能や公共交通などの移動手段の維持
- 災害に対する安全性の向上

- 高齢者や子育て世代などをはじめとするすべての世代にとって安全・安心で暮らしやすい、「ユニバーサルデザイン」の視点にも配慮した居住環境

都市の効率性や持続性の向上

- 市街地の人口密度の維持や、様々な都市機能が集積する拠点の形成
- 公共交通・医療・福祉などの関連分野とも連携
- 市街地の低密度拡散を抑制した、自然環境・農業生産環境と調和した都市づくり
- 社会資本の適正な維持管理による都市経営コストの抑制や環境負荷の軽減等

- 市民の生活や経済活動などを支える様々なサービスを効率的に提供することができる、効率性の高い都市構造
- 都市の持続性向上

多様な担い手による都市づくりの推進

- 行政や市民個人はもちろんのこと、事業者やNPOなども含めた多様な担い手が協働する都市づくりの推進

- 多様化・高度化している市民のライフスタイルや都市に求められるニーズへの対応

5. 将来都市像

パワーがある・パワーが生まれるまち

- 多様な産業から生まれる活力や、都市の活力に裏打ちされた市民の自信・活気が生み出すパワーがある・パワーが生まれるまち
- 多くの人が集まり、交流することによる「にぎわい」が生み出すパワーがある・パワーが生まれるまち
- 市民一人ひとりのいきいきとした活動や希望が生み出すパワーがあり・パワーが生まれるまち

くらしやすさと文化をはぐくむまち

- 災害に対する安全性が高く、社会資本の適正な維持管理が図られるとともに、日常生活を支える都市機能や移動手段が確保され、すべての世代にとってくらしやすい・くらしやすさが続くまち
- 日常の市民生活や歴史、地域の特性などを活かしたまちづくりや地域活動が行われ、地域ごとに特色や文化をはぐくむまち

えがおが 生まれる えがおが 集まる 都市

都市の活力を生み出す「パワー」があるまち、くらしやすさと文化をはぐくむまちをつくる。そして、このようなまちづくりに協働して取り組んでいくことが愛着や誇りにつながる。

暮らす人・訪れる人みんなが笑顔になるまちを目指します。

現計画(平成16年3月策定)の将来都市像(キャッチフレーズ)

協働を礎とした愛着と誇りを持てるまち

- 行政や市民、事業者や NPO などが協働でまちづくりに取り組むことを通じてまちに対する愛着が生まれ、くらしたいと思う・くらすことに誇りを持てるまち

5. 将来都市像

『キャッチフレーズ』見直し案

えがおが 生まれる
えがおが 集まる 都市

- 成熟社会では、新たなものを生み出すだけではなく、今あるものを活かし、伸ばしていく視点が重要になる。
- 子どもを生み、育てやすい社会をつくっていく必要がある。
など

えがおを はぐくむ
えがおが つながる まち

- 環境・都市経営の視点から、都市の持続性を高めていくことが不可欠である。
- 地域コミュニティなど、人と人とのつながりが重要である。
- 様々な面で連携を促進していくことが重要になる。
など

6. 将来都市構造

6-1 目指すべき将来都市構造のイメージ

都市活力の向上を図りつつ、
みんなが住みやすい・住み続けられるまちを実現する、

コンパクト&ネットワークの都市構造

の構築を図ります。

■ 『コンパクト&ネットワークの都市構造』とは

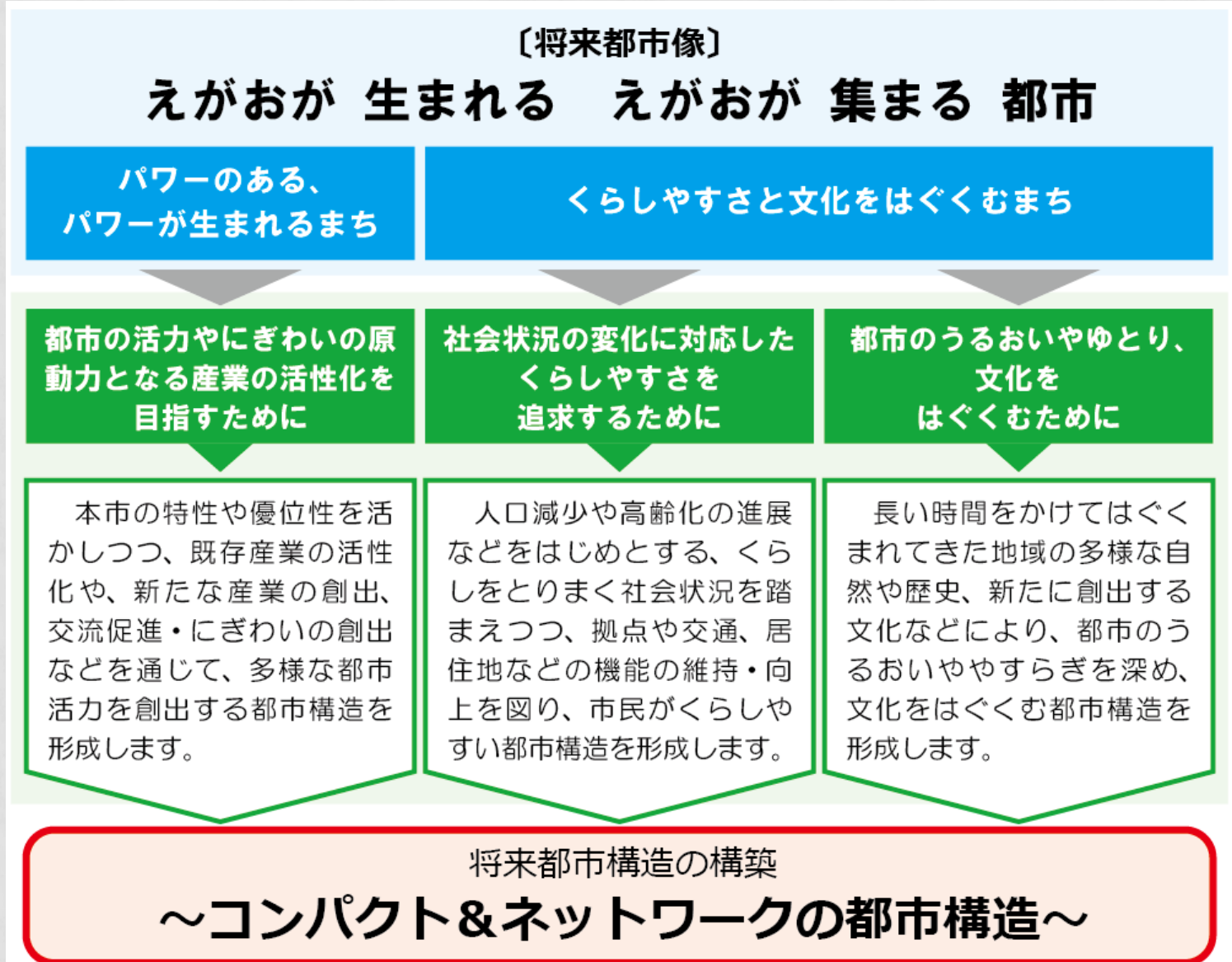
- 市街地の拡大を抑制して「コンパクト」な市街地を形成するとともに、市内各所と拠点を結ぶ公共交通などの「ネットワーク」の充実を推進

これにより…

- 人口が減少する中でも都市活力の維持・向上を図りながら、みんなが住みやすい・住み続けられるまちを実現

6. 将来都市構造

6-2 将来都市構造の構築に向けた基本的な考え方



6. 将来都市構造

6-2 将来都市構造の構築に向けた基本的な考え方

(1) 都市の活力やにぎわいの原動力となる産業の活性化を目指す都市構造の考え方

- 本市の特性や優位性を活かしつつ、既存産業の活性化や新たな産業の創出、交流促進・にぎわいの創出などを通じて、多様な都市活力を創出する都市構造を形成

都市の活力・にぎわいを創出する拠点の形成

- 市内外から公共交通でもアクセスしやすい場所に、多くの人が集い・交流することで、にぎわい・活気を創出する拠点を形成
- 市内各所に立地する様々な既存産業や新たな産業の活性化、観光交流の促進などを支える都市の活力を創出する多様な拠点を形成

産業や交流を支える交通ネットワークの構築

- 市内外や広域、さらには全国・世界へとつながる、人や物の円滑な移動を支え、活発な産業活動や交流を促進する交通ネットワークを構築

6. 将来都市構造

6-2 将来都市構造の構築に向けた基本的な考え方

(2) 社会状況の変化に対応したくらしやすさを追求する都市構造の考え方

- 人口の減少や高齢化の進展などをはじめとする、くらしを取り巻く社会状況の変化を踏まえつつ、効率的で利便性の高い都市・交通サービスの提供や、地域の特性に応じた居住環境の充実などを通じて、市民が暮らしやすい都市構造を形成

市民のくらしやすさを支える拠点の形成

- 既存の都市機能集積を最大限に活用するとともに、公共交通ネットワークとも連携しながら、市民の様々な外出行動に応じた都市機能が集積し、効率的に都市サービスを提供する拠点を形成

地域の特性に応じたくらしのゾーンの形成

- 自然環境との調和などにも配慮しながら、地域の特性を活かした快適で魅力あるくらしのゾーンを形成

市民の日常生活を支える交通ネットワークの構築

- 様々な都市機能が集積する拠点へのアクセスや、拠点間・拠点内の移動のための手段となり、市民の日常生活に必要な移動を支える、鉄道・路線バスなどを中心とした交通ネットワークを構築

6. 将来都市構造

6-2 将来都市構造の構築に向けた基本的な考え方

(3) 都市のうるおいやゆとり、文化をはぐくむ都市構造の考え方

- 長い時間をかけてはぐくまれてきた地域の多様な自然や歴史、新たに創出する文化などにより、都市のうるおいややすらぎを深め、文化をはぐくむ都市構造を形成

市内外の人が集い・交流する拠点の形成

- 市内各所に見られる特徴的な水とみどりのそれぞれの特性を活かしながら、市内外から人々が集い、交流する拠点を形成

水とみどりのネットワークの構築

- 特徴的な水とみどりの空間をつなぎ、市内をめぐるネットワークを構築

水とみどりのゾーンの形成

- 地域ごとの特性や求められるはたらきを踏まえた、水とみどりの保全や創出・活用を図るゾーンを構築

6. 将来都市構造

6-3 将来都市構造の構成

(1) 土地利用区分

- 都市全体としての開発・保全のバランスや、地域の特色などの視点から、大きく二つの土地利用に区分
 - 都市的土地利用と自然的土地利用の広がりについては現状を維持
 - ・ 都市的土地利用では効率的な市街地を
 - ・ 自然的土地利用では自然的環境の保全を基本
- 土地利用ごとにふさわしい機能性の高い空間を形成

① 都市的土地利用

- 心地よく・快適で都市的なくらしやすさの充実を図るとともに、活力やにぎわいを生み出す機能的な都市活動を確保するため、コンパクトで効率的な土地利用を展開

② 自然的土地利用

- 無秩序な開発を抑制し、貴重な自然資源の保全や農林漁業等への産業への活用を図るとともに、豊かな自然的環境に囲まれたゆとりと落ち着きあるくらしやすさを目指した土地利用を展開

6. 将来都市構造

6-3 将来都市構造の構成

(2) 拠点

- 都市の活力やにぎわいの創出、市民のくらしやすさの向上、うるおいある都市空間の形成などの視点から、都市や地域の中心、産業や交流の中心となる7種類の拠点を配置

① 中心拠点	● 多様な高次都市機能が集積を図り、都市全体・圏域全体の便利で快適な生活を支える都市サービスを提供するとともに、都市の活力・魅力を生み出す、多くの人が集い・にぎわう拠点を形成
② 広域機能拠点	● 地区の特性に応じた高次都市機能の集積を図り、円滑・効率的に都市サービスを提供する拠点を形成（中心拠点を補完）
③ 地域生活拠点	● 身近で基本的な都市機能の維持・充実を図り、くらしやすさを支える拠点を形成
④ 産業・物流拠点	● 地区の特性にあわせた多様な産業・物流の拠点を形成
⑤ 観光・交流拠点	● 自然や歴史・文化、食などの魅力ある地域資源それぞれの特性を活用し、観光交流を促進する拠点を形成
⑥ 学術拠点	● 産学官の連携や学術をけん引する拠点を形成
⑦ 水とみどりの拠点	● 大規模な公園や自然資源などのそれぞれの特性を活かしながら、市内外から人々が集い、交流する拠点を形成

6. 将来都市構造

6-3 将来都市構造の構成

(2) 拠点

② 広域機能 拠点	八戸駅周辺地区	● 観光・交流機能や文化機能などの集積を図ることで、中心拠点を補完するとともに、八戸市や広域の「玄関口」としての役割を担う拠点を形成
	田向地区	● 環境が整い、市民病院が立地している地区の特性を活かし、医療・保健・福祉機能などの集積を図ることで、中心拠点を補完するとともに、安心な市民生活を支える拠点を形成
④ 産業・ 物流拠点	循環型産業拠点	● 循環型産業の活性化を支える拠点を形成
	物流拠点	● 多様な産業の活力を支える物流拠点を形成
	水産業拠点	● 水産業の基盤強化や、観光産業などへの活用に向けた拠点を形成
	情報産業拠点	● 八戸グリーンハイテクランドを中心に情報産業が集積する拠点を形成
⑦ 水とみどりの 拠点	集い、にぎわう 拠点	● 広域の中心都市における都市機能のひとつとして、市内外から人々が集い、にぎわう拠点を形成
	訪れ、憩う拠点	● 八戸らしい既存資源を維持・保全するとともに、市内外の人々がやすらぎ・交流する拠点を形成

6. 将来都市構造

6-3 将来都市構造の構成

(3) ネットワーク

- 市内各所と拠点、拠点と拠点を結び、広域や全国・世界へとつながる、産業や交流、市民のくらしを支えるネットワークを形成

①交通ネットワーク

- 様々な産業や交流、市民のくらしを支えるとともに、都市内外の連携を強化する交通ネットワークを構築

②水とみどりのネットワーク

- 八戸らしい空間を形成している海岸線や河川沿いの空間をつないだ、市内をめぐる水とみどりのネットワークを構築

①交通ネットワーク

公共交通ネットワーク


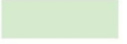












- 鉄道・路線バスなどが連携して相互に補完することで、市民の生活に不可欠な基本的な移動手段を確保するとともに、都市の活力や魅力を支える公共交通ネットワークを構築

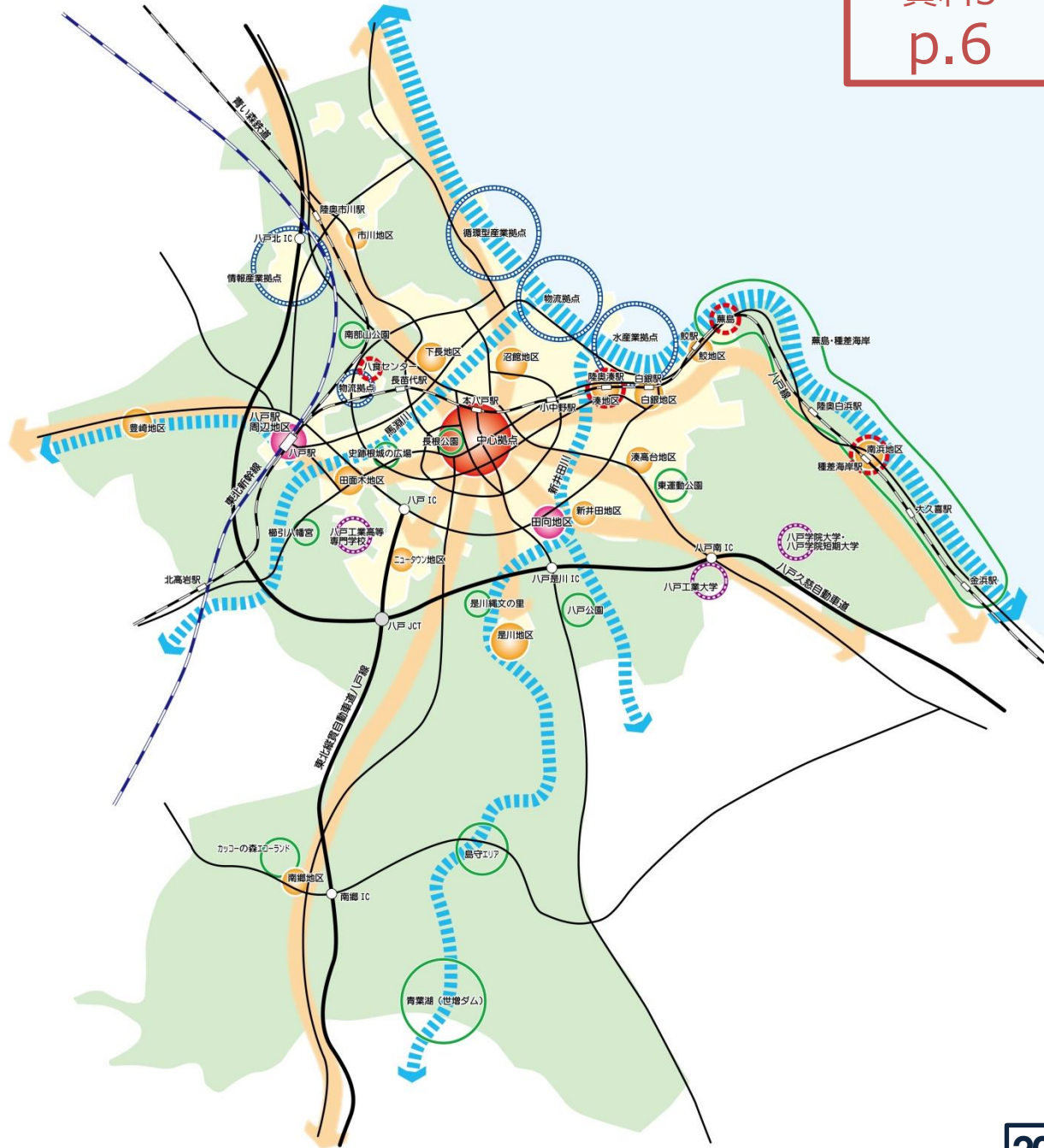
道路ネットワーク

- 市民の快適なくらしや、活力ある産業活動、災害時の緊急活動などを支える道路ネットワークを構築

6. 将来都市構造

6-4 将来都市構造図

土地利用		都市的土地利用	
		自然的土地利用	
拠点		中心拠点	
		広域機能拠点	
		地域生活拠点	
		産業・物流拠点	
		観光・交流拠点	
		学術拠点	
		水とみどりの拠点	
ネットワーク		公共交通 ネットワーク	鉄道（新幹線）
			鉄道（在来線）
			路線バスなど
		道路ネットワーク	
		水とみどりのネットワーク	



6. 将来都市構造

6-4 将来都市構造図（市街地周辺拡大図）

